



10人の職員が入庁しました。よろしく願います。

令和4年度入庁

新規採用職員紹介

石川保育所 ▶ ^{わかの}若野 ^{ちあき}千晶

四 季折々表情の変わりゆく自然豊かな町で、元気いっぱい子どもたちと一緒に成長できることをとてもうれしく思います。子どもたち一人ひとりの「その子らしさ」を大切に、心も体ものびのびと育む保育ができるよう頑張ります。

Wakano Chiaki

観光交流課 ▶ ^{やの}矢野 ^{せいな}聖菜

移 住定住事業、国際交流事業、地域おこし協力隊事業などを担当します。先輩方に教えていただきながら、地域の皆さんに頼っていただける職員になれるように精一杯頑張っていきます。

Yano Seina

福祉課 ▶ ^{まつだ}松田 ^{しょうこ}翔子

介 護高齢係で介護保険の申請に携わる業務を担当します。約10年振りに生まれ育った与謝野町に戻り、働けることを大変うれしく思います。早く地域の皆さんの力になれるように精一杯頑張ります。

Matsuda Shoko

社会教育課 ▶ ^{きはら}清原 ^{けいご}啓護

重 要な文化財を多く有する与謝野町で学芸員として仕事ができることをうれしく思っています。文化財を守り、後世へと伝えていくだけでなく、その魅力を多くの人に知ってもらえるように頑張ります。

Kiyohara Keigo

山田保育所 ▶ ^{はぶち}羽渕 ^{さよ}彩代

子 どもたちや保護者の方、周りにいる人に元気を与えられる職員になるため、笑顔と明るさを忘れず、気持ちの良いあいさつを心がけます。子どもの気持ちに寄り添ったり、やってみたい気持ちを大切にしたい保育ができるよう頑張ります。

Habuchi Sayo

国民健康保険診療所 ▶ ^{にしだ}西田 ^{みちえ}三知江

生 まれ育った与謝野町に戻り働けることを大変うれしく思います。頼りがいのある明るく元気な看護師を目指します。患者さんに寄り添い、迅速な対応ができるよう精一杯頑張ります。

Nishida Michie

建設課 ▶ ^{たにくち}谷口 ^{ゆうき}裕城

進 学をきっかけに与謝野町を離れましたが、与謝野町に戻り、住民の皆さんのために働けることを大変うれしく思います。先輩方から教えていただきながら、皆さんが安心安全に過ごせる町づくりをしていきたいです。

Taniguchi Yuki

国民健康保険診療所 ▶ ^{やまね}山根 ^{さやか}彩加

大 切な故郷である与謝野町のために働けることを大変うれしく思います。看護師として思いやりを持ち、住民の皆さんが安心安全に医療を受けることができるよう精一杯努力をして参ります。

Yamane Sayaka

企画財政課 ▶ ^{よしもと}吉本 ^{もゆる}萌

地 域コミュニティづくりのための補助金やよさのみらい大学業務を担当します。今は目の前にある仕事に一つずつ一生懸命取り組んでいきたいです。当事者意識を持ち、住民の皆さんの目線に立って仕事のできる、親しみのある職員を目指していきます。

Yoshimoto Moyuru

保健課 ▶ ^{こまき}小巻 ^{ちあき}千晶

生 まれ育った与謝野町で、住民の皆さんの生活と健康を支える一員として仕事ができることをうれしく思います。予防接種と骨粗しょう症に関する業務を担当します。前職の経験をいかし保健師として皆さんの力になれるよう精一杯頑張ります。

Komaki Chiaki

協働による学びと今後への期待

加悦谷学舎では、少人数による日々の丁寧な授業に加え、放課後を活用した基礎から積み上げる学び、キャリア教育などを通じた目標から逆算していく学びを効果的にかけ合わせ、一人ひとりの生徒の意欲や可能性を伸ばす教育を展開しています。生徒は学校だけではなく、町がつくる地域との接点も含めて、社会が求める総合的な人間力を培っています。そして、生徒もまた、その素直な感性で地域の人たちに多くの学びと元気を与えてくれています。

入学時は輝きを秘めた原石でも3年間の学びを通じて、自分の魅力を見つけて大きく光輝くことができます。町として、加悦谷学舎は地元の中学生や保護者の期待、要望に応えられる学舎であり、この学舎で育った生徒たちが、将来この地域の未来を明るく照らす希望の光になると願っています。

加悦谷学舎は、加悦谷高校の歴史や伝統を継承する一方、新たなストーリーを描ける余白にあふれています。誰かに何かをやっても

らうのではなく、新たな学校を自分たちでつくりたい！というチャレンジ精神旺盛な生徒によって、加悦谷学舎の歴史が刻まれていくことを期待しています。

協働の成果

■ 地域探究
生徒の約70%がふるさとへの愛着度が向上したと回答。

■ キャリア教育・進路実現支援
推薦入試の合格率が3年間で約30%向上。

■ 総合型選抜対策講座を受講した生徒のうち約60%の生徒が、将来の地域貢献やUターンに興味があると回答。
(ここ数年、丹後・中丹地区への就職率は60%超)



令和3年度の進路状況

■ スポーツ交流・実践経験

町内で高校生の存在感を示す場面が増えたことによる地域の高校生に対する期待度の向上。

高校魅力化ビジョンが目指す未来

基本理念

「学社協働」～地域を創る人づくり 選ばれる学校から選ばれる町へ～

「可能性を信じて 一歩前へ！

未来を切り拓くもうひとつの Passion (情熱) Dream (夢) Challenge (挑戦) Achievement (達成)

加悦谷学舎の前身である加悦谷高校は、地域住民・教員・行政の3者がお互いに一歩を踏み出し、協働によってできた学校です。協働とは、より幅広い組織同士が企画段階から一緒に練り上げ、交流することによって互いを高めていくことを意味しています。

本事業においては、学校と社会が持つ力を結集し協働することによって、それぞれが抱える課題を力強く超えていける人をつくり、結果として、互いの魅力を高め、選ばれる学校づくりから選ばれる町に繋がっていくことを目指しています。なお、町としては「選ばれる」と「一歩前へ」をキーワードとしています。

では、もうひとつ「選ぶ」というキーワードがより一層重要になると考えています。

かつて、先人はこの地域に学校をつくるという道を選びました。時は流れ、町、高校とともに、名称や枠組みは変わりましたが、現在、町は魅力化という名称で、引き続き高校を支援する道を選んでいます。しかし、選ぶという主語は、いつの時代でも町民の皆さんにあります。町全体の将来を考え、今という時代を担う責任を踏まえ、これから私たちが何を望み、どんな道を選ぶのか問われることとなります。



ビジョンの詳細はこちら

